

「手に職をつけたい」ということを、ずっと前から漠然と考えていました。デザインと一口に言っても、ただつくるだけではない、何か根拠があって、それに裏打ちされたものを形にしたいと思っていました。ゼミ選択時に、これが実現できるのはどこかと考え、斉藤研究室に行き着いたのは自然な流れでした。先生には以前から部活等で散々お世話になっていたのに、不安はありませんでした。しかし卒研テーマ決定はかなり悩みました。学生らしい大物に挑戦するのもいいけど、自分が実際にやると仮定して、現実的な規模での内容を考えました。自宅にロガーを何台も設置し、温湿度データを取り続けると同時に、家族に温度感覚について毎朝毎晩記録を付けてもらいました。これがどのような結果になるのか？ まさに手探りです。結論らしい結論が出なかったらどうしよう、そんな風に思ったこともありましたが、しかし、記録データをグラフ化してみたところ、面白い結果が出てきたのです。その瞬間、この研究が腑に落ちた感じがしました。先生に結果を報告したときの嬉しさは今でも覚えています。そこから一気に論文をまとめ、結果を踏まえた作品制作にも取り組みました。

ゼミでは「パッシブ」な技術について考えてきましたが、現在は電気の仕事をしているのでどちらかというと「アクティブ」です。でも建築の知識も勿論必要で、これまで学んできたことで無駄だったものは何一つありませんでした。すべて繋がっているんだということが、社会人6年目にしてひしひし感じているところです。これは知識だけでなく、人との出会いについても同じことが言えるというのが最近またわかってきました。勉強するというのは楽しいものです。

先生の講演がたまにあるので聴きに行きたいのですが、できれば日曜日に開催していたいただけるとありがたいです。

成田梓